

食物科 特別授業



「環境にやさしいプラスチック製品の普及について」

プラスチック資源の循環の促進と脱炭素社会の実現に向け、植物由来のバイオマスプラスチック等を原料とした環境配慮型プラスチック容器などについて学びました。SDGs 目標12の「つくる責任 つかう責任」の視点から、どのように行動するべきかを考えました。

講師 アテナ工業(株) 奥村 教全 氏



講習会の様子



3年生の科目「総合調理実習」の一環であるレストラン実習でバイオマス由来成分の割合が80%を含むプラスチック容器を使用し、試食者の方へ環境配慮型プラスチック容器を紹介しました。

<生徒の感想>

- ・プラスチックは軽くて丈夫で、衛生的で便利だが、使いすぎると資源が減ってしまう。リサイクルをして繰り返し使っていくことが大切なことだと分かった。
- ・料理を人に提供するためには、便利さや安全、衛生面を考えるとプラスチック容器が欠かせない。環境汚染や地球温暖化を抑制するためにも料理を作る人の責任、製品を使う人の責任を意識して、バイオマス由来のプラスチックの使用やゴミの分別をしっかりとりたいと思った。
- ・プラスチックの長所を活かしながら、人や環境に与える影響を考えて使用していきたい。
- ・「循環」という言葉をキーワードに生活を見直していきたい。